様式第 1(第 15 条関係)

会　　議　　録

会議の名称	令和8年度　第1回　和泉市医療と介護の連携推進審議会
開催日時	令和 8 年 8 月 5 日(水)午後1時30分から午後3時00分まで
開催場所	市役所　本館 3A 会議室
出席者 (敬称略)	【委員】 永田委員、髙橋委員、上嶋委員、北野委員、西川委員、長嶋委員、吉田委員、 治村委員、川井委員、 宮地委員、上村委員 【欠席】 松下委員、大原委員 【事務局】 福祉部:佐々木部長 高齢介護室:奥野室長・田口課長・藤原総括主幹・川上総括主査・鈴木主事 和泉市在宅医療介護相談支援センター:渡辺
会議の議題	和泉市医療と介護の連携推進に関すること
会議の要旨	1. 令和 7 年度和泉市医療と介護の連携推進審議会振り返り 2. 令和 7 年度の活動報告と令和 8 年度の活動計画案について 3. その他(9 期計画の評価と次期計画の方向性)
会議録の 作成方法	□全文記録 ■要点記録
記録内容の 確認方法	■会議の議長の確認を得ている □出席した構成員全員の確認を得ている □その他(　　)
その他の必要事項(会議の公開・非公開、傍聴人数等)	公開、傍聴人なし

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）
○部長挨拶 ○事務局より出席委員の紹介 ○議事（1）令和７年度和泉市医療と介護の連携推進審議会振り返り ・和泉市版人生会議メモ（第２版）の作成と活用について、事務局より資料１をもとに説明。令和７年度審議会にて頂いた意見を基に、本人だけでなく家族や支援者、地域の人々との情報共有・連携を強化する仕様に改善した。2,000 部増刷し、活用を推進している。 ・市民フォーラムの開催報告について、令和８年 ３月１日に「大切な人と語り合う わたしの人生会議」を開催した。高齢期の子世代の参加を促すため、子世代の著名人を招き、寸劇やグループディスカッションを実施した。アンケートでは、参加者の９割以上が人生会議への意欲を示すなど、高い評価を得た。 ○議事（2）令和７年度の活動報告と令和８年度の活動計画案について 事務局より、令和6年3月策定「第9期和泉市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」における、医療と介護の連携推進事業に関わる「基本目標3」に対応した進捗管理表を基に取組・課題・今年度の取り組みついて説明を行った。 【資料2-1】 主な事業「①地域の医療・介護資源の把握」 ・在宅医療を支える医療機関・訪問看護事業所一覧について、医療機関や地域包括支援センターに配架し、市民からの問い合わせに対応できるよう取組んだ。 ・薬剤師会の協力のもと「在宅医療の対応が可能な一覧表」も在宅医・地域包括支援センターへ配架し活用いただいた。 ・課題は、「連携に必要な情報」や手段として「ICT」の活用の検討 ・今年度も情報更新を継続し、必要に応じ市民への情報提供を実施する。 【資料2-2】 主な事業「②在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応の検討」 ・本審議会や下部組織の専門部会、課題別の部会において、現状把握と課題抽出を行い、必要な施策の企画立案を実施している。 ・課題③～⑦課題別部会で抽出した課題を専門部会にあげ、施策の企画立案を行うしくみであるが、各部会で終結している傾向にある。 ・今年度は、特に医療と介護の連携が求められる4つの場面に応じた課題等の整理を行うことで、現場の具体的な取組や専門部会へ課題を吸い上げるルートを再整備し、次期計画の3年間に取り組む具体的な活動を整理する。 【資料2-3】 主な事業「③切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進」 ・入退院連携や急変時、看取りなどの時期を捉えた体制構築に取組んでおり、消防機関、在宅医療に必要な連携を担う拠点と連携し、高齢者施設との意見交換の場を実施した。 ・課題①看取り代診システム参加医療機関が増えないこと、課題②介護事業所間連携について、SNS を活用した情報発信を試みるも登録者が増えないことがあげられる。

・今年度は、在宅医療や介護が必要となる 4 つの場面の取組を検討するプロセスにおいて、消防機関や在宅医療に必要な連携を担う拠点の専門部会への参画をはかり、取組を進めていく。

【資料2-4】 主な事業「④医療・介護関係者の情報共有の支援」（資料3参照）
・医療・介護資源の情報共有や、必要時に市民及び関係者が選択・連絡できるような環境整備に取組んでいる。
・今年度は、情報更新を図るとともに、情報共有ツールとしての機能も果たす和泉市版人生会議メモの認知を広めるため、活用方法等を端的に掲載した周知チラシを作成し、活用を促す

【資料2-5】 主な事業「⑤在宅医療・介護連携に関する相談支援」
・医療介護連携推進コーディネーターを中心に、医療介護関係者からの相談に応じ、連絡調整や情報提供を行っている。
・相談件数は減少傾向で、コーディネーターの役割（住民の困り事を解決するための医療と介護の連携体制を整える窓口）について研修会などを通じ、専門職への周知を図っていく。
・昨年度より地域包括支援センター職員がコーディネーターに加わっており、在宅療養などの相談を担う地域包括センター（住民の困りごとを解決するための窓口）とより密接に連携することで、相談支援機能（役割を明確に発信）の強化を図っていく。

【資料2-6】 主な事業「⑥医療・介護関係者の研修」
・医師会、歯科医師会をはじめ専門職を対象とした研修会を開催している。今年度も計画のとおり進めていく。

【資料2-7】 主な事業「⑦地域住民への普及・啓発」（資料3．4．5参照）
①地域出張型在宅セミナーや②市民フォーラム、③和泉まちの保健室を通じ、在宅医療や介護に関する知識・情報の発信、「専門家まかせの医療や介護」ではなく、「自分の人生を自ら生きるための主体性の重要性」を考えるきっかけを提供している。
①地域出張型在宅セミナーは増加しており、講座番号8・9（人生会議）のオーダーが増えている。
②市民フォーラムは、議事1の振り返りを参照。
③和泉まちの保健室は、昨年度も1号店、2号店ともに継続開催している。2号店は、和泉市立総合医療センターと大阪母子医療センターが主催し、毎月、庁舎 1 階の市民室前で開催している。健康相談や人生会議についてなど幅広い年代層の相談機会となっており、相談場所の確保や周知活動などの後方支援を継続する。
・令和 8 年度のフォーラムは、2040 年問題や「身よりのない高齢者の問題」が地域課題として浮上していること等を踏まえ、平成 25 年 4 月に施行された「和泉市市民を中心とした医療と介護の連携推進条例」の原点に立ち返り、現状を「我が事」として主体的に捉え、「日常からの心構え」についての意識醸成を図ること、「専門家任せ」から、市民の「自分らしい生き方」を考える機会となることを目的とした市民フォーラムの開催を予定している。和 9 年 2 月～3 月頃にシティプラザでの開催をめざし、専門部会を中心に検討を進めている。

【資料2-8】 主な事業「⑧在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携」

・主に、和泉保健所管内の市町による情報交換を行っている。情報共有が中心ではあるが、今年度も医療と介護の連携推進コーディネーターとともに出席し、回を重ねていく中で、広域連携が必要な事項についての協議や連携体制の構築を図っていく。

〇質疑
〇委員
テーマについて、「おひとり様」っていうと、単身や結婚していない人のイメージがあるので、「おひとり様問題」というと、対象が高齢者になってくるのでは？
〇委員
おひとり様で身寄りがない方は、意識をされてる方がまたいるとは思うが、ご夫婦 2 人世帯の方が、問題視されていないと現場では感じる。
〇委員
自分が 67 歳で高齢者になったが、まだまだ元気で自分事として捉えていない。現在の背景も踏まえ、50～60 代を対象にするなら、介護などを前面に出すより「これからの人生をより豊かに生きるためにあなたが 70 歳になったとき、2040 年を迎えたとき、どうありたいか。」という、自分のこれからをデザインするイメージを持ってもらうフォーラムが良いと思う。身寄りがなくても、安心して過ごすために、地域との繋がりやこれから必要になる制度もあるだろう。
〇委員
「おひとり様」となると、財産の処理や入院の手続きなどを家族以外に信託できるようなシステム（成年後見制度）の充実をさらに進めてほしい。
〇委員
条例の存在があることを市民に知ってもらわないといけない。そのために、周知の工夫が必要だろう。
〇委員
「自分で 1 人になりたい」「1 人で生活をしたい」人もいる。そのような人が高齢になったときに必要な手続きや病気になったときに困ることを想像しにくいと思うので、自分がしたい暮らしをするために将来発生するリスクやそれに対して医療と介護のサービスができることを話し合ったり事前に知っておくということが大切。専門職との話し合いを踏まえ、参加者が当事者として考えるきっかけにもなればよい。
〇委員
2040 年問題でいうと、現在和泉市では約 100 件近くの歯科医院があるが、2040 年には 60 件に減るというデータがある。現在は相談対応できているが、10 数年後にどこまで対応できるのかと思う。医療・介護が連携し、相談の受け皿があることをアピールできれば市民のさらなる安心につながるのではないか。
〇委員長
2040 年問題は、医療界でいうと、心不全パンデミックというキーワードがあり、今後心不全が増えていく。今後、病院、施設に入りたくても入れないという状況になる問題もある。それを踏まえて、積極的にそういう状況になりうることを想定した上で、ACPを進めていきたいなと思う。
資料3のフォーラム企画書についてたくさんのご意見がでた。
審議会としては、医療と介護の連携推進条例の原点に立ち返り、「我が事」として主体的に考えられるよう、「専門家任せから、市民の自分らしい生き方」を専門職が一体となって支援するようなきっかけとなるフォーラムになるよう、開催していただきたい。

議事 2「令和 7 年度の活動報告と令和 8 年度の活動計画案について」の審議を行った。異議はないか。
○委員　異議なし

○議事（3）その他（9 期計画の評価と次期計画の方向性）
・「9 期計画の評価と次期画の方向性」について事務局より説明。
現在、第 9 期の最終年度を迎えており、次期令和 9 年度～令和 11 年度を計画期間とする 10 期計画について、介護保健運営審議会にてご審議いただいており、本審議会に関連する（3）医療と介護の連携強化について、報告を行う。
「活動指標の進捗の「地域出張型セミナーの受講者」および「多職種による会議・研修の開催回数」は目標値を達成し順調に推移している。一方で、「在宅医療・介護連携コーディネーターの相談対応件数」は目標を下回っているが、専門職間の連携が進んだことや各機関での対応力が向上したこと、地域包括支援センターのネットワーク構築が進んだことによる減少と捉えている。
「評価指標と実績の「医療関係者と連携ができているケアマネジャーの増加」において、病院・診療所との連携は、前回調査より下回り目標は未達成であるが、歯科診療や調剤薬局、訪問看護ステーションとの連携は目標を達成、または前回調査を上回る水準を維持している。また、「人生会議」の実施状況は、具体的な話合いやこれから話し合いたいという意向を持つ市民が未認定者・要支援・要介護者とも7～8割となっている。
分析の各種会議や研修など様々な取り組みを通じ、歯科・調剤等の連携目標が達成され、在宅療養を支える専門機関の「顔の見える関係」は着実に高まっていると評価している。
次期にむけての方向性は医療・介護に関する情報を専門職や市民へ適切に周知するとともに、人生会議の普及・啓発を継続し、市民が話し合いを実践的な行動へつなげられるよう支援していくことが重要と考えている。

○委員長
只今の説明に対し、意見はどうか。
○委員
現場でも、身寄りのない方や 8050 問題に関する相談が増加する中、医療と介護の連携による意思決定支援の重要性を感じている。人生会議への関心の高まりも感じている。2040 年問題を見据え、今後も医療と介護の連携強化が期待されている。地域包括支援センターの主任ケアマネジャーが 1 名、医療介護連携コーディネーターの一員を担っており、今後も皆様とより一層の連携強化を進めていきたいと考えている。
○委員長
そのほかに意見はないか。
○委員
異議なし。

○事務局より閉会のあいさつ